

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2072100221		
法人名	社会福祉法人 みまき福祉会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 ほのぼのホーム		
所在地	長野県東御市布下37		
自己評価作成日	平成21年8月15日	評価結果市町村受理日	平成22年1月28日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://aaa.nsyakyo.or.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2072100221&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社マスネットワーク 医療福祉事業部		
所在地	長野県松本市両島7-1 オフィス松本堂2A		
訪問調査日	平成21年10月22日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「いつまでもすこやかに生き生きと安心して暮らし続けたい その願いをかなえる核となります」そして「のびやかに すこやかに」という、法人と事業所それぞれが掲げる理念にあるとおり、認知症である利用者が安心して生活できていること。野菜の皮むきや洗濯物たたみなど、それぞれの利用者ができることを無理のない範囲で実際に行ってもらっていること。それぞれの利用者が思い思いに過ごしていること。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ほのぼのホームは、温泉を中心とした福祉、医療などの総合福祉施設に併設し、平成11年にデイサービスの棟続きに開設された。利用者の居室の窓外には、浅間山をはじめ四季折々の自然を望むことができる。地域の人々の「住み慣れたところで、生き生きと、できる限り自立して暮らしたい」という願いの核となる施設を目指し、職員一同は日々サービスの質の向上に取り組んでる。事業所は、運営推進会議、地域連携情報会議の開催、保育園の運動会への参加や中学生の実習の受け入れなど、地域との交流を大切にされている。また、生活が施設内だけで完結することのないよう、いちご狩りやぶどう狩りをはじめとした季節の行事を多くとり入れ、利用者や家族の楽しみに繋がっている。今回利用者の重度化や終末期の対応への検討が始められたことで、利用者や家族の希望や意向に寄り添う姿勢がうかがえた。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

ユニット名()				
項目		取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当する項目に印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	<p>理念の共有と実践</p> <p>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている</p>	<p>当事業所の理念「のびやかに、すこやかに」をだれも見えるところに張ってある。定期的にパンフレットの見直しをしている。</p>	<p>地域住民との交流の下、家庭的な環境の中でできるだけ自立した生活を生き生きと暮らすという願いを込めた、「のびやかに、すこやかに」という理念は、事業所の見えやすい場所に利用者の手書きの作品として掲げられ、職員全員に周知されている。</p>	
2	(2)	<p>事業所と地域とのつきあい</p> <p>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している</p>	<p>近隣3地区と地域連携情報会議を開催している。近所の直売所などで買い物や散歩の際、話しかけてもらっている。昨年より近所に畑を借り、季節の野菜を作ることによって、近所の方々と話ず機会が増えた。畑の草取りのボランティアもできた。</p>	<p>地域との相互関係を築くために、事業所と近隣3地区の住民の参加による地域連携情報会議を開催し、交流に取り組んでいる。保育園の運動会では競技に参加したり、中学生の体験学習を受け入れたり地域活動や人々との接点をもつ努力がされていることが確認できた。</p>	
3		<p>事業所の力を活かした地域貢献</p> <p>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている</p>	<p>法人主催の事業所発表会で認知症への理解を促したり、家庭介護者教室等を開催し、受講者を募り、講習会を実施している。</p>	/	/
4	(3)	<p>運営推進会議を活かした取り組み</p> <p>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>運営推進会議と家族会を合同で開催し、話し合いの結果を職員全員で共有し、サービスの向上に努めている。</p>	<p>運営推進会議は、家族会の出席もあり、事業所の具体的な改善課題を話し合い、双方向的な会議となっている。地域連携情報会議とともに、地域の人との接触を持ち理解と支援を得るための会議でもあり、サービスの向上に活かしている旨を伺った。</p>	
5	(4)	<p>市町村との連携</p> <p>市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる</p>	<p>地域包括支援センター、高齢者係と連絡を取り合い、アドバイスを頂いている。地域密着型サービスであるため情報提供もしてもらっている。</p>	<p>サービス担当者会議や入所判定会議、介護相談員の訪問など、折に触れて情報の共有を図っている。市の担当者は話しやすい雰囲気があり、ニーズの具体性を伝えるなどの連携は取れている。</p>	

外部評価結果(ほのぼのホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	いずれの職員も指定基準を理解している。当然身体拘束も行っていない。	認知症の研修に繰り返し参加し、職員は身体拘束の弊害を理解している。利用者の人権を守ることがケアの基本であるという認識の下、一人ひとりの外出の傾向を把握するなど、安全を確保しつつ自由な暮らしを支援するための見守りが行なわれていた。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	各職員とも虐待についての理解をしている。日常の介護の各場面でも、互いに注意し合える環境作りを行い、虐待が見過ごされないように注意している。		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修資料などを回覧し、学習している。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	本人はもちろん家族にも契約書、重要事項説明書の内容をわかりやすく説明している。疑問等にも、その都度丁寧に説明している。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者に面会時、会議の際いつでも意見・要望等があれば確認している。また、実践している。	言うことをためらう家族の心情を察し、家族会の集まりでは職員が席をはずし多くの意見や要望を出してもらえるような配慮がされていた。出された意見は、ミーティングで話し合いサービスに反映させるなど、前向きに受け止める姿勢が伺えた。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	法人全体では、運営会議を開催している。また、毎年各職員が自己申告書を作成し、面談を行っている。事業所ではスタッフ会議を開催している。いずれも意見、要望、提案等を聞く機会が用意されている。	年1回の個別面談と自己申告書により、職員の意見や要望、年間目標等が把握されている。ミーティングや日頃からのコミュニケーションが図られ、現場職員の意見や気づきが運営に取り入れられている。	

外部評価結果(ほのぼのホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		<p>就業環境の整備</p> <p>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている</p>	<p>理事長、常務理事、施設長が訪問する。各職員とも毎年自己申告書を作成提出し、常務理事、施設長と面談を行っている。</p>		
13		<p>職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>認知症研修、接遇研修、解剖生理学研修等実務に必要な研修を実施している。また、地域福祉論、高齢者福祉論等について通年研修を実施し、介護福祉士や社会福祉士の試験対策にもなっている。</p>		
14		<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>依田窪福祉会と合同の研修を定期的に行っている。東信地区の同業者と勉強会、相互評価等の活動を行っている。</p>		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		<p>初期に築く本人との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている</p>	<p>利用者、家族と面談を行っている。自宅で様子を確認したり、担当のケアマネジャーに確認したり、デイ利用時に話したりすることもある。</p>		
16		<p>初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている</p>	<p>利用者、家族と面談を行っている。利用者の前では話にくい場合には、別に機会を設けて家族と話すようにしている。電話等で確認することもある。</p>		
17		<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>	<p>地域包括支援センター、高齢者係、担当ケアマネジャーに助言してもらっている。地域密着型サービスであるので、情報提供もしてもらっている。</p>		

外部評価結果(ほのぼのホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	各職員とも本人を同じ家で一緒に生活する者同士として、食事作りやそうじ、体操等いっしょに行っている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人は当事業所に入所しているが、常に在宅復帰を念頭において、日々のサービスを行っている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	外出、外泊は自由である旨を説明している。訪問時にはまわりに気を使うことなく一緒にすごせるように配慮している。併設のデイサービスで、親しい利用者として過ごすときもある。行事等で特養に出かける際にも同様。	管理者と職員は、本人を取り巻く人間関係を把握し、馴染みの人や地域住民との継続的な交流ができるよう支援している。昔から利用している美容院や、墓参りの外出ができるような働きかけも行なわれていた。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事のときの座席を配慮している。ソファでくつろぎながら利用者同士でテレビを楽しめるように努めている。新聞や各種の本を揃え、いつでも閲覧できる。他、興味のあることや趣味であること等継続できるようにし、利用者同士で関わり合えるように支援している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	併設の特養に入所した利用者や行事や散歩のときに一緒にすごしている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	思いや希望を聞き取り、出来る限り実現できるように努めている。趣味や生活歴などからも、希望や意向などを検討している。	好きなテレビ番組や将棋などの趣味を把握し、楽しめるような配慮をしたり、その日その時の希望や意向、日々の習慣を大切にするなど本人の視点に立って検討されていた。	

外部評価結果(ほのぼのホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当のケアマネジャーのケアプランや情報提供書を参考にしている。利用開始時や家族、友人の訪問時に趣味や生活について確認している。日々本人と関わりながら情報収集に努めている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の申し送りや記録を見直している。事業所の職員のみならず、併設のデイの職員や医師、訪問看護師などからも情報を収集している。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の申し送りやカンファレンスで検討している。医師や訪問看護師から助言してもらうこともある。必要に応じて、法人内の他職種協働支援者会議での意見を聞き、介護計画を作成、検討している。	現状に即した介護計画はケアマネジャーが立案し、職員全員の意見で作成している。月2回のカンファレンスでは、プランの作成のほか、モニタリングや評価に向けた意見交換がされ、職員全員による見守りが行なわれていた。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の日報や利用者ごとの記録に記載し、職員間の統一を図っている。また、申し送りノートに記録することにより、情報を共有している。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	急な外出や外泊や家族や友人等の訪問など、本人や家族の状況や要望を優先し臨機応変に対応している。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進委員に地域包括支援センターの職員も入ってもらい、委員会や行事にも参加してもらっている。法人として近隣3区とともに地域連携情報会議を開催し、意見交換をしている。本人の希望を確認しながら訪問理美容サービスを利用してもらっている。		

外部評価結果(ほのぼのホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望するかかりつけ医となっている。受診や通院は本人や家族の希望に応じて対応している。家族が同行できない場合には職員が同行している。	本人、家族の希望するかかりつけ医を中心に、緊急時は隣接の診療所の診療を受けられるなど、柔軟に対応されている。訪問看護師による健康チェックが行なわれており、日頃の健康管理や異常の早期発見につながっていると思われる。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、週1回の看護師の訪問がある。健康管理や医療面での相談、助言等を行ってもらっている。日頃より体調や表情などを観察し、必要に応じて看護師に報告し、適切な医療につなげるようにしている。		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	診療所の医師に相談しながら、最善の方法をとるようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	加齢に伴って重度化する場合や終末期を迎えることも十分に起こりうることだが、本人や家族の意向を踏まえ、医師、職員が連携をとり、安心して納得のいく生活や終末期ケアができるように取り組んでいる。	利用者の家族にとって、終末期の対応のあり方は不安のひとつである。管理者はホームでの看取りの重要性を認識し、医療関係者との連携を図りながらチームで支援していくために、今後看取りの指針の作成に取り組む旨伺った。	事業所が前向きに終末期の支援に取り組み始めたことは、利用者や家族の安心につながると思われます。具体的なケースを想定し、事業所としてできること、できないことを見極めながら、職員の不安や他の利用者への影響も考慮して体制を整えられることを望みます。
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	訪問看護師による指導を受けている。消防署による指導を受けている。マニュアルを用意している。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	事業所だけではなく、法人全体で防災計画を策定している。また、地域の消防団と協力体制を作っている。近隣3区と共同で地域連携情報会議に参加している。	地域の消防団の協力の下、隣接事業所と合同で、年2回の防災訓練を行なっているほか、夜間の通報訓練がされている。防災頭巾の準備や電磁調理器の導入など、防火防災に向けた取り組みはされているが、十分とはいえない。	一人ひとりの利用者の状況を踏まえ、災害時の具体的な避難策を昼夜通して検討することが必要です。特に夜間の避難誘導については、日頃より話し合い、職員全員が慌てず確実に誘導できるような取り組みが望まれます。

外部評価結果(ほのぼのホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	援助が必要な場面でもまずは本人の気持ちを大切に、自尊心を傷付けぬように配慮しながら援助している。利用者の情報収集や外部事業所との連携の際にも、守秘義務について十分に理解し、取扱と管理を徹底している。	職員は利用者に対し年長者としての敬意を払い、利用者から学ぶという姿勢で接し、地域性に配慮しながら個人情報の確保をされている様子が伺えた。また、プライバシーの確保に関する研修を実施するとともに、ミーティングなどで確認していく取り組みがされていた。	ホームへは家族や近隣の方々等の訪問があります。事務室は仕切りがなく、居間の一部となっていて、利用者の生活に溶け込んでいる反面、個人情報が目に触れ易い危険もあります。書類等の管理について工夫されることを望みます。
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	各利用者に合わせて声掛けを行っている。意思表示が困難な場合でも、表情などを観察し、できる限り本人が決める場面をつくっている。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ホーム内の基本となる1日の流れはあるが、各々の利用者の体調や気持ちに配慮しながら、できるだけ個性のある支援を行っている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	可能なかぎり更衣や衣類の選択など、本人に決めてもらっている。自己決定が困難な場合でも利用者と職員が一緒に考えて、できるだけ利用者の意向を大切にしている。		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきや食後の食器洗い等できることは行ってもらっている。行事などの際、希望のものを食べてもらったり、一緒に買い物に出かけたりしている。	買い物、調理、食事、あと片付けなどは、利用者個々の力を活かしながら職員と一緒に進んでいた。利用者が、自信を持って行なえるような声かけがされており、心身の力の維持や前向きな気持ちを引き出すような場面づくりがされていた。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎回、食事量の確認をして、月2回のカンファレンスで検討している。		

外部評価結果(ほのぼのホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア、月に数回の義歯洗浄と消毒を行っている。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	各利用者の排泄のパターンや習慣を職員が理解し、できるだけトイレで失敗のない排泄ができるように援助している。	利用者の習慣や排泄パターンを把握するとともに、本人のプライドを傷つけないようさりげない声掛けによる誘導がされていた。職員は、トイレで排泄できることが自信の回復につながることを認識し、自立に向けた支援を行っていた。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事は繊維質の多い野菜中心になるようにしている。摂取量を把握している。日常的に体操や散歩を実施し、排便チェックをしている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	日曜、水曜以外の毎日実施。入浴予定表があるが、他に希望があれば実施。希望により温泉で入浴してもらっている。	隣接するデイサービスの温泉を利用して、入浴支援を行なっている。入浴予定表にとらわれることなく、一人ひとりの希望を大切にしながら対応されている旨伺った。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	自由に眠ってもらっている。居室のベッドはもちろんソファ、縁台、畳の上、椅子に腰かけたままの休息も自由。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人ファイルに処方薬の説明書を入れてある。職員はいつでも確認できる。		

外部評価結果(ほのぼのホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各利用者のできることや興味のあることを職員が理解し、無理のない程度に行えるように援助している(散歩、畑、塗り絵、囲碁、将棋、テレビ等)。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけるように支援している	希望時に散歩に出掛けてもらったり、家族と外出したりしている。また、買い物や日光浴などのために外出することもある。	職員は、利用者がホームの中だけで過ごすことの弊害を理解し、戸外に出かける支援に努められている。職員や地域の方の見守りにより、本人の希望に添った散歩や買い物などを行なうことで、生き生きとされている様子が伺えた。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	行事や散歩等で外出の際、欲しいものを選んで購入してもらっている。喫茶店で軽食を購入している。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望に合わせて行っている。必要に応じて手続きをしている。「ほのぼのだより」に手紙を添えることもある。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の草花を飾りつけ、眺めたり育てたりしている。日光を調節したりして、気分転換を図っている。時間に合わせて音楽を流したり、テレビをつけたりしている。	仕切りのない事務室兼畳の間からは、食堂や居間、居室の入り口が見渡すことができ、圧迫感のない工夫された構造になっている。日当たりのよい廊下からは、ゆっくり花壇が眺められるよう椅子が配置されている。絵画や写真、観葉植物などの装飾により居心地の良い空間となっていた。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食事用のテーブル、テレビの前のテーブル、ソファ、縁台、畳の上など思い思いのスペースでくつろいでもらっている。		

外部評価結果(ほのぼのホーム)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所の際、自宅同様使い慣れた物を使用できる旨を説明している。また、家族が用意した物を使ってもらっている。	共同生活の中、プライバシーを重視した居室の居心地の良い環境作りがされていた。前回の課題であったパーティションで仕切られた2部屋については、完全個室となるような工事が行なわれ、改良に向けた取り組みが確認できた。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	伝い歩きや長距離の歩行が困難な場合でも、食事用のテーブルや椅子、ソファ、縁台、畳のスペース等所々につかまったり休んだりできるようになっている。明るさを調整できる照明あり。		